



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年10月6日

No. 11



平成20年9月22日

卓話 『発展する中部圏の秘密』

株式会社 三晃社 代表取締役会長

中部経済同友会 代表幹事

川村 悌式 様



本日は「発展する中部圏の秘密」という大それたテーマです。3～4ヶ月前に卓話をやれというお話をいただいた頃、名古屋は景気がいい、活力があると言われていたのですが、サブプライム問題に端を発した不況が続く今、中部圏もヒーヒー言っているというのが実情です。

まず中部圏の範囲ですが、愛知、岐阜、三重、静岡の東海4県と北陸の福井、石川、富山、それに長野の8県を中部圏と称しています。ご存知のように中部圏はものづくりで有名です。昔、愛知県、特に三河地区は土地が痩せていてお米が取れなかった。その土地に近代工業時代、一挙に工場群ができた。痩せた土地があったために三河地区が一大発展したとも言えると思います。2005年に愛知万博が開かれ成功に終わりました。同時期に中部国際空港が常滑沖の干拓地にできました。この2つが非常に大きかった。万博を成功させるために空港も道路も必要ということで交通インフラを整備したお陰で、ものの流れも人の流れもよくなりました。中部圏は今回の金融破綻の状況を見ても、やはりものづくり産業が基盤だと考えるわけです。ものを作って儲けることが最大の美德。これだけの交通インフラができるなら、東京に依存しない、世界とダイレクトに結ぶ中部圏にしようというのがそこにいる者たちの希望です。そういう点で知識集約型、知的価値創造型のサービス業、文化産業を育て、ものづくりと両輪の輪で進むことが大事だと感じています。

どうしてここまで発展したのかというと、交通インフラの整備に合わせて、ものづくり、特に5つの業種が非常に元気がよくなったことが上げられると思います。自動車産業を中心とした輸送機産業は愛知、岐阜、静岡、三重の4県で全国の7割近い生産を占めています。第2に工作機械。輸送機を作るマザーズマシンのメーカーが愛知県に集中しています。

第3は航空機部品産業。これもまた岐阜県、愛知県が圧倒的に多い。今、ボーイングの部品の35%以上は三菱、川崎、富士の3つの重工が作っています。第4は亀山にあるシャープの液晶パネル工場と四日市にある東芝の半導体工場。北川知事の時、お金を出して誘致したのが見事に花を咲かせました。最後にセラミック産業。ノリタケ、日本碍子といった会社が輸出で大変よかったわけです。

今後、中部圏から世界にダイレクトに発信していくためには、ものづくりをもっと環境とかエネルギーに配慮して高度化しなければいけない。CO₂の排出が圧倒的に多いのは石油、石炭です。日本のように人口が1億人以上の国はやはり原子力でなければいけないと思います。中部圏のエネルギー確保は、もちろん安全を前提にしてですけど、原子力をやれば環境にもやさしい形になると思います。2つ目は、やはり新しい産業を作らなければいけない。改善、改良ではなく、本当の意味でのイノベーション。そういう新産業分野の開発をしたい。そして最後はやはり人間です。少子高齢化で少なくなった若者を中部圏に引きつけ、子どもの受け皿をちゃんと作って女性の力を活用し、元気なシニアに活躍してもらおう。そして最後は外国人。名古屋大学には約2500人の留学生がいますが、アジアが圧倒的に多い。彼らが望むのは日本での就職です。いい職に就き、結婚もしてそこで過ごしたいという発想が多くなっています。中部圏の更なる発展のためには、彼らを是非活用していかなければいけないと思います。

